

# 体育館でも「石綿公害」

87.3.6.  
毎日

## 大阪府 実態調査へ検討チーム

大阪府豊中市北椋塚三、府立勤労青少年ホームの体育館で、発がん性が指摘されている石綿（アスベスト）含有ボードが天井や壁面に使われ、その一部がはく離、館内を汚染している可能性があることが五日の大阪府議会民生衛生

常任委員会で明らかになった。府は事態を重視、同体育館など公共施設での石綿使用の実態を調べる検討チームを近く発足させる。

石原忠一府議（社会）が明らかにしたもので、この体育館は四十一年六月に完成、延べ二七六平方、半球形の建物。石綿含有ボードは、館内の防音と耐火のため天井と壁面に使用されている。築後二十年以上も経過、ボードがぶつかるなどして、一部に穴が開いたり、欠け落ちて

いる。

同府議は、体育館で、主婦や勤労青少年が室内スポーツを楽しんでおり、落下した石綿繊維を吸い込む可能性が強い、と指摘。「今回の体育館をはじめ府立の学校など、公共の建物について石綿の使用実態を早急に検討せよ」と迫った。これに対し、三橋昭男衛生部長は「石綿と肺がんとの因果関係は指摘されており、関係部局の検討チームを早急に設置したい」と答えた。